

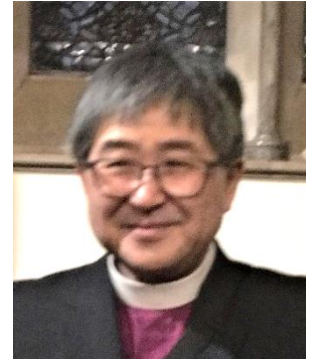
感謝箱献金だより

ガリラヤのほとり 34 号

感謝箱献金—主イエスの友・主イエスの仲間としての働きを支える

「私はあなたがたを友と呼んだ」

ヨハネによる福音書 15：15



日本聖公会大阪教区主教
アンデレ 磯 晴久

主イエスは、私たちを僕（しもべ）ではなく「友」と呼んで下さいます。言い換えると「仲間」だと呼んで下さいます。畏れ多いことですが、私たちは「主イエスの友、主イエスの仲間」です。そして、主イエスは、この主イエスの友の輪の働きと、この仲間の輪がどんどん広がっていくことを願っておられます。

新型コロナウイルスはなかなか収束しそうにありません。皆様はどのようにお過ごしでしょうか。私は、新型コロナウイルス禍、人間とは本当に弱い存在だと日々感じています。その弱い存在であるというところをスタート地点に、世界を再構築していかないといけないのではと考えています。

どう生きていけばいいのか。ヒントになるスピーチがありました。新型コロナウイルス禍ニューヨーク州のクオモ知事が、一時期とてもよくテレビのニュースに登場しました。彼は政治家には珍しく、「愛」という言葉をよく使います。たとえば、クオモ知事の所に、ある農家のご夫婦から1つのマスクが届きます。次のような手紙が添えてありました。「わたしたちの手元に、農業用の良いマスクが5つあります。わたしの妻は、肺が1つしか働いていないので、新型コロナウイルス感染がとても心配ですが、わたしたちは2つずつあれば大丈夫ですので、この一つをあなたに送ります。どうぞそれをご苦労されている医療従事者に差し上げてください。」そしてクオモ知事は、ここに「愛」がありますと語り、新型コロナウイルス禍、世界のいのちを救うのはこうした「愛」の力です、と彼は訴えました。彼は、愛の力を信じて、「命を守る」「弱くされている人々を守る」側に立とうとしています。

クオモ知事がどのような宗教的背景を持った方かわかりませんが、「主イエスの友、主イエスの仲間」を感じさせる政治家です。そうです、主イエスは、命の側に立つ、弱くされている人の側に立つ方でした。一人ひとりの命を大切に守ることが、「主イエスの友、主イエスの仲間」であるということです。わたしたちも、「主イエスの友、主イエスの仲間」であると言い表し、命の側に立つものでありたいと思います。

さて、改めて日本聖公会婦人会の感謝箱献金の献金先を見ると、リグリマ・ジャパン、アルディナウペボ、サイディア・フラハ、エルサレム教区「聖地ろうあ子どもの里 HLID」、中部教区「NPO 法人ワンダウム」、中部教区「国際子ども学校 ELCC」、国境なき医師団日本、認定 NPO 生活困窮・ホームレス自立支援ガンバの会・「夢塾」、災害被災者・東日本大震災被災者支援（積立）、・・・と続きます。それらはどれも小さな命を守ろう、小さくされている人々の側に立とうという働きです。それらは皆「主イエスの友、主イエスの仲間」の働きであり、感謝箱献金はこうした働きを支えるために献げられています。

今後も小さないのちを守ろう、小さくされている人々の側に立つ働きは、大切です。感謝箱献金の輪がさらに広がっていきますように、お祈りします。



コロナ禍の中でお献げ先の状況は

リグリマ・ジャパン

上澤伸子

バングラデシュでは8月現在、新型コロナウイルス感染者は29万人、死者3,800人に達しています。ガロの人びとは4月から開始されたロックダウンなどの感染症対策により、仕事を失う事態に直面しています。とくに日雇い労働の仕事がなくなりました。それに加えて、洪水により農作物が被害を受けました。教会の礼拝もリグリマも会合も開くことができないので、携帯電話によるオンライン集会をつうじて、会員同士のつながりを保っています。リグリマ・メンバーの1人は次のようなお便りをくれました。



マスクを着用するメンバーたち

「わたしたちは、リグリマ・ジャパンの姉妹たちや聖公会の姉妹たちの話を、ディレクターのラブリーさんから聞きました。みなさんの思いやりと共感に感謝しています。この地域では5世帯のガロの家が隔離対象になりました。なぜなら、家族のなかに、病院に勤める看護師がいて、そこから家庭感染が起きたからです。また地域で唯一のこの病院も閉鎖されました。今後どうなるのでしょうか。教会の人たちでお金を集めて、20人の貧しく困っている人たちに差し上げました。どうぞわたしたちのために祈ってください」

聖地ろうあ子どもの里

「聖地ろうあ子どもの里」子どもを支える会 日本代表 吉松さち子

1 ヨルダンにおける新型コロナウイルス感染状況

ヨルダンでは、3月に入ると、国境封鎖、航空機の出発や到着禁止、外出制限、省庁、民間企業、学校の閉鎖を実施しました。

新型コロナウイルス感染者数は、1,283人（8月11日現在）で、死者数は11名

「聖地ろうあ子どもの里」から感染者が出たという情報はありません。（7月19日時点）

ヨルダンは、医療体制が十分ではないため、外国との往来をいち早く閉鎖。外出禁止も、違反すると厳しく罰せられるので、自由に買い物に行くことはできません。それでも8月中旬以降、アンマンからドーハ行きとドバイ行きの臨時便を開設。それぞれの乗り継ぎ空港から成田または関空行きの便に接続しています。

2 「聖地ろうあ子どもの里」

学校は3月17日、一斉に閉鎖され、6月半ばから夏休みに入りました。政府は、9月1日から新学期の授業を始めると発表しました。学校の閉鎖とともに子どもたちは全員親元へ帰りました。子どもたちには、パソコンやスマホを持たせ、遠隔授業を行うとっていました。

政府も公立学校の生徒には、全員にパソコンを持たせると発表しています。

「聖地ろうあ子どもの里」では、パソコンの使い方を教えています。家族のうち、手話を理解できるのは、子どもたちだけであり、パソコンやスマホを家庭でどこまで使いこなせるか、学校側の思い通りに事が運んだかどうかは疑わしいところです。

休み中にすべての教員が手分けして全家庭を訪問するともいっていましたが、子どもたちは全国に分布しており、交通機関や道路事情からいっても簡単ではありません。

9月になったら、子どもたちを始め、教職員や関係者が無事学校で再会を喜び合えるように祈っています。

コロナ感染はケニアでもこの3月から始まりました。そのため全国の幼稚園・小学校・セカンダリー（高校）はケニア政府によりすべて休止され、来年1月からの再開となりました。児童養護施設のほうも子どもたちが親戚のもとへ帰され、いまだにこちらへ戻って来られない状態です。

このような緊急事態となりましたが、私どもはこのような厳しい状況の子どもたちを見捨てるわけにいかず、施設の子どもたちには毎月2500円を親せきを通じて食べ物代として送金しています。それだけではなく、学校児童へはときどきプロジェクトに来てもらい、コミュニティベースにより無料の教育を始めています。しかしこれらの活動を資金的に一部支えるはずの授

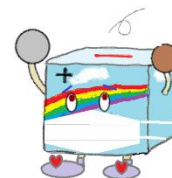


このところ全く使っていない
小学校の教室



プロジェクトではコミュニティ
の児童たちを集めてコロナ対策
の指導などを始めました

業料は入ってこないの、施設用にと日本の支援者の方たちから送っていただいている資金で我々スタッフ・先生の給料は半額以下にして、毎月の税金、電気代などの維持費を出しています。でもそのかいあって、日本聖公会のみなさまをはじめとする支援者の方々が、コロナによる自らの困難にもかかわらず、資金援助をつづけていただき救われています。私どもはみなさまから資金だけではなく勇気までもいただき、なんとか来年までプロジェクトを維持する覚悟でいます。ですから今後



WOLD

(ニームの会 2019 年度のお献げ先)

WOLD からのレポートをニームの会 山下明子会長が要約されました 抜粋

「COVID-19 がヴァダヴェッティ村に与えた衝撃」

「私たちは今、共にいます。そして共にここから抜け出します」



「ロックダウン前」の WOLD 畑

WOLD 農村女性センターは南インドのタミル・ナードゥ州、ヴィルuppalam 県、メルマライアヌル地区のヴァダヴェッティ村にあります。村の人口は 900 人弱、その 53% は指定カースト（SC、元「不可触民」）です。SC のほぼ全世帯は地主の日雇い労働で食べており、地主も小規模の農家がほとんどです。女性の識字率は村全体でも 29% と低く、都市から遠く離れた村ですが、人口の男女差はありません。

WOLD はメルマライアヌル地区で広く自助グループ（SHG）づくりをしましたが、今回のコロナ禍の影響を村内の 20 の SHG の代表に電話して聞きました。

インドは法律で 3 月 25 日から 8 月 31 日までをロックダウンしています。外出を禁じられ、日雇い労働ができません。定例のグループの集まりもできません。村の地主階層にとっても今は収穫時期なのに労働者がおらず、搬出もできません。畑で作物は腐り、種籾を残すこともできません。これは全インドの農村で同様のようです。

唯一の救いは貧困層に無料の配給米があること、ハーブなどの薬草を活用していること、また、自助グループ内でお金を融通しあい、助け合っていることです。



「ロックダウン中」の WOLD の畑

NPO 生活困窮・ホームレス自立支援ガンバの会は 1997 年にホームレスの命と尊厳を守る市民活動として発足し、以後法人格を取得した団体です。

これまで家族とも社会とも切り離され路上にいるしかない多くの方々と出会い、関係を築き、アパート支援を行っています。相談を受け付ける際にアセスメントを取らせていただきますが、育った家庭環境が貧困であり低学歴であった、十分な教育を受ける機会がなかったという要因に驚かされました。中には読み書きができない大人の方が何人もいらっしゃるのです。必然的に選べる仕事は肉体労働で日雇いしかなく、体を壊すと路上に出ざるを得ないといった現状を見てきました。



貧困の連鎖を断ち切り、次世代の社会的自立を促すために、2012 年 9 月より低所得家庭の子どもたちを対象に教育のサポートに取り組んでいます。

通塾している生徒の 9 割は母子家庭で、不登校の子どもたちも多く、学習の遅れを取り戻したいとがんばっています。ボランティアの先生方にもご協力いただき、生徒一人ひとりに寄り添った授業を行っています。

またお腹をすかしてくる子どもたちのために近所のパン屋さんが無償で提供してくださったり、夢塾を応援してくださる方々から本や図書券などの寄付もいただいています。

勉強だけではなく、子供たちの居場所になれるようにと、夏はバーベキュー、冬はクリスマス会を行ってきましたが、今年はコロナウイルスの影響で思うようにイベントができないのが残念です。（クリスマスでは元牧師の理事長からイエス降誕のお話をしてもらいます）

生活環境は厳しくとも、将来に夢をもって歩んでほしいと願っています。そしていつか、つまりいた時は応援してくれる人がいたことを思い出してほしいと思っています。



感謝箱献金事務局 チャブレンから

司祭 エレミヤ・パウロ 木村直樹（大宮聖愛教会）

新型コロナ感染症が指定感染症になって以来、嫌な世界になったと感じます。感染症の流行よりも、感染者の特定や自粛警察の登場など、ウイルスによって生じる人間の負の行動です。確かにワクチンも治療薬も無い感染症ですから、誰もが恐れ、自分の周囲に感染者がいないように願うことは理解できます。

「毒麦のたとえ」という物語が、福音書にあります。良い麦の種を蒔いたはずなのに、毒麦も生えてきたので、しもべが毒麦を駆除しよう主人に提案すると、主人はそれを却下します。生えるままに任せておけと…。

考えて見ると、わたしたちはリスクのまったくない完璧な世界を生きているのではありません。わたしはリスクがあることが悪いことだけではないと思います。リスクもまたわたしたちにとって意味があるのではないかと思います。リスクゼロを求めるよりも、リスクの中にある意味を見出すことを求めたいと思います。

「アルディ ナ ウペポ」の今後 吉田愛一郎



母、吉田千鶴は2020年4月24日に神に召されました。

「アフリカで本当に悲惨なのは動物ではない。子供たちよ。一片のパンと、屋根、せめて毛布があれば」子供たちのために母は奔走しました。その実行力は目を見張るものでした。こうしてナイロビのダゴレッティー地区に建築された孤児院が Greenish House で、そこで提供された食事がヨシダ チャクラ（食事）です。子供は母の提供する食事が大好きでした。やがてそれが政府を動かし、アメリカの NGO の FTC（フィーザチルドレン）が本格的に動き出しました。スラム街が変容したのです。そんなころ隣国のウガンダの北部に内戦が起きました。戦場を逃げまどう子供とそれを捕まえて戦争の道具にする民兵（ミリタント）が横行しました。母はウガンダ北部の子供たちをかくまうシェルターの建設に動き出しました。そして出来上がったシェルター（砦）はテオコノ（皆の家）と呼ばれました。そこには子供たちで溢れかえったものでした。戦争はやがて終わります。しかし終戦はほかの問題をあらわにしました。戦場の子供たちは教育を受けていないので職に就けないのです。母は機関銃の音をミシンの音に変えました。ミシンはタタタタと軽い平和の音を奏で、子供たちは手に職を付けました。



そしてそのテオコノはやがてウガンダのグルの人々にプレゼントされたのです。

それは2020年2月の終わりでした。そしてそれを見届けるように母は神様に召されました。

秋が巡ってくるとアルディナウペポは財団法人に昇格します。財団はテオコノやウガンダの大学院大学 ABI と協力し合いながら、東アフリカの人々の育成と難民問題に向き合っていくでしょう。

献身的に母を支えてくださった。三一教会のスタッフは東京聖一教会 AU（アルディナウペポ）に留まって、東京聖三一教会信徒のために紅茶をサービスし続けます。

そんなサークルが全国の教会に広がったらどんなに素晴らしいでしょう。

祈ってください。

千鶴さん お疲れさまでした

アフリカの子ども達の事をいつもお心に留め、祈りつつお働きになっておられた千鶴さん。私たちは貴女を通して、アフリカの子ども達が置かれている厳しい状況を知り、大きな愛と勇気をもって行動することを教えて頂きました。

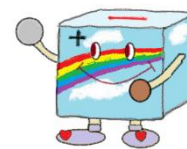
貴いお働きに心より感謝いたします。



(41) 竹井自身

写真は2017年に雑誌「女性自身」に掲載された物をご遺族から提供して頂きました

2020 年度 感謝箱献金 お献げ先 支援額



- ✧ 聖地ろうあ子どもの里—HLID（エルサレム教区） 20 万円
「聖地ろうあ子どもの里」の逼迫した財政、及びシリア難民キャンプの支援活動の一部としてお献げした。
- ✧ リグリマ・ジャパン 25 万円
バングラデシュのキリスト教徒の少数民族ガロ族の女性たちの地位向上、経済的自立、差別の撤廃、安心して暮らせる社会を目指す活動のためにお献げした。
- ✧ サイディア・フラハ 25 万円
ケニア・キテンゲラで保護を必要とする児童の養護施設。また貧しい地域での幼稚園・小学校の維持、運営費の一部としてお献げした。
- ✧ アルディ ナ ウペポ（東アフリカの子供を救う会） 20 万円
ウガンダ・グルにある職業訓練所の裁縫教室の内容充実と卒業生たちの技術向上に関わる経費の一部としてお献げした。
- ✧ ガンバの会「夢塾」（認定 NPO 生活困窮・ホームレス自立支援） 15 万円
千葉県市川市の生活困窮家庭の不登校などの問題を抱えている子ども達のため、世帯全体に寄り添う学習支援。憩いの場の提供などのための経費の一部としてお献げした。
- ✧ 国際子ども学校—ELCC（中部教区名古屋学生青年センター） 20 万円
名古屋市を中心に在住するフィリピン人労働者の子ども達の学校。月謝を納められない保護者も多く、また公的援助も難しいため、学校運営費の一部としてお献げした。
- ✧ 中部教区 NPO 法人ワンタイム 10 万円
海外医療協力事業として、2020 年度バングラデシュ・ジョイラムクラ・クリスチャン病院への医師派遣の経費の一部としてお献げした。
- ✧ 国境なき医師団日本 10 万円
命の危機に直面している人々に医療を届ける国際的な NGO。COVID-19 感染拡大に伴う活動資金の一部としてお献げした。
- ✧ 災害被災者・東日本大大震災被災者支援（積立） 今年度積立金額 30 万円
東日本大震災から 9 年、今後も被災地を憶え祈り支援を続ける必要がある。また、災害が発生した時、速やかに支援できるように準備を整える必要がある。広く災害被災者支援を行う資金として 2019 年から 3 年間 30 万円を積み立てる。

教区婦人会からの声

大阪教区婦人会 会長 山村小夜子

大阪教区婦人会は一九二三年に教区成立と同時に教区婦人補助会結成大会が開催されました。しかし一九四三年頃国内において戦況が厳しくなり婦人伝道補助会が解散されたり困難な状況におかれたり・・・戦災の影響を受けたにも関わらず、その後また再出発に向け活動し始めました。また日本聖公会組織成立第一回総会の地である、など以上のことが“息吹をうけて聖公会婦人の戦後史”の書物に記録されています。大阪教区は大阪府と兵庫県の一部の二十二教会のうちの十六教会の婦人会代表者が毎月教区館で集まり代表者会を開催しています。各教会同士は恵まれた立地条件の元にあるため、とても活動し安く、時にはそれぞれの教会を訪れて会議を持ち回り交流を深め合っていました。現在の会員数は四七四名です。歴史を振り返ってみますと、昇天日の総会・福音記者聖ルカ日の秋の修養会・被献日(婦人会創立記念日)礼拝は婦人会創設以来ずっと現在も受け継がれています。

役員及び代表者委員の任期は三年です。残念なことに今年度は新型コロナウイルスの影響のため総会をはじめ、何一つ行事を執り行われなくなっていました。毎主日の礼拝での平和の挨拶、聖餐式、礼拝後の交わり昼食会など通常にできていたことができなくなり、全て私たちに試練として与えられるようになりました。最近の自粛生活において私たちは目の前に当然あるべきものがどんどん失われて行くことを痛感します。そして、今までの平常の日々であった時の感謝の気持ちの足りなさが、この今思い起こされます。それは神様から導かれた感謝の祈りを献金する“感謝箱献金”の大切さを教えられているのだと思います。日本聖公会婦人会の活動の一環としての“感謝箱献金への働き”はハンドブックにも記載されている通り大変貴重なものです。それは海外・国内と活動範囲は広がり他国の女性や子どもとの交流が図られ、私たち一人ひとりの小さな小さな力でも多くの人々への呼び掛けが重要で、支援することが大きな力となり私たちはこれからも努めて行くべきことです。

六月十六日の日本聖公会婦人会第二十六(定期)総会後第一回会長会【オンライン会議】において、感謝箱献金のお献げ先に関する件で「国境なき医師団日本」の活動のため二〇二〇年度一年間十万円をお献げする議案を提出し承認されましたことを報告致します。

感謝箱献金のいのり

神さま、今日もみ恵みの中で生かされていることを感謝いたします。

イエスさまはいつも、悲しんでいる人、苦しんでいる人と共に歩まれました。

私たちにもそのイエスさまの歩みに倣(なら)う心をお与えください。

私たちのこの献げものが、最も助けを必要としている人々のために用いられますように。

また、この人々との交わりを通して共に生きるものとならせてください。

主イエス・キリストのみ名によって アーメン



プロフィール

出身：北海道札幌市

出身教会：札幌キリスト教会

経歴：北海道内の発掘作業とその報告書作成のお手伝いをしていました

趣味：散歩、特に美術館、博物館巡り

いつも祈りのうちに覚え、またお支えいただいておりますこと感謝いたします。

原稿依頼のお手紙の中に、「感謝箱献金は米国聖公会より 130 年近く前に伝わり、長きにわたり先輩諸姉が続けてこられた尊い活動です。」というご紹介の文章がありました。また同封の『感謝箱献金だよりガリラヤのほitori 30 号』の巻頭言を執筆された、東北教区吉田雅人主教様のお言葉により、感謝箱献金の働きが 1892 年に始まり、やがてこの運動を主体的に担うため、日本聖公会婦人補助会が組織されたことを知りました。感謝箱献金運動が始まる少し前の 1891 年には、岐阜県本巣市を震源とするマグニチュード 8 の濃尾地震が起こり、あたり一面甚大な被害にみまわれました。石井十次が始めた岡山孤児院の収容児童が急増したこと、また孤児となった女子が人身売買の対象になる話を聞いた石井亮一が、聖三一孤女学院を開いたことを学びました。また 1894 年には日清戦争が勃発しており、この時代が大災害を経て、国家主義が台頭し、いかに世情不安定な時代に傾いていったかをうかがい知ることができます。そんな時、私たちの先輩が集い、この尊い活動を始めてくださったのです。たぶん様々な困難があったことでしょう。でもそんな中だからこそ「イエスさまはいつも、悲しんでいる人、苦しんでいる人と共に歩まれ」たことを想起し、「私たちにもそのイエスさまの歩みに倣うところをお与えください」そして「私たちのこの献げものが、最も助けを必要としている人々のために用いられますように」「この人々との交わりを通して共に生きるものとならせてください」という祈りが生まれたのではないのでしょうか。私もその祈りに連なるものでありたいと思います。

コロナ禍の誰もが苦しい状況の中、いのちの危機にさらされている人たちがおられます。また豪雨災害により、大切な人の命、住まいを失った人たちもおられます。世界には紛争、飢餓が絶えません。どうか皆様、今日まで続けてこられたこのお働きを、「やれることを、やれるだけ、やる」ことで続けていただきたいと思います。私も微力ながらそのお働きに参加させていただければと願っております。

編集後記

「ガリラヤのほitori」34 号をお届けいたします。原稿を執筆頂きました皆さまには感謝申し上げます。COVID-19 感染が世界中に大きな影響を及ぼしています。皆さまも今までにない不自由な生活をお送りになっていらっしゃる事でしょう。以前より厳しい状況に置かれている海外のお献げ先の皆さまを心配なさっておられる方も多いと思い、急遽ご報告して頂きました。お献げ先の皆さまの事をお憶え頂きお祈りいただけたらと思います。

永井眞由美



日本聖公会婦人会感謝箱献金事務局
〒297-0032

千葉県茂原市東茂原 10-192

永井方

電話/FAX 0475-24-6915

E-mail kansyabako@gmail.com